

報道関係 各位

2019年9月19日
株式会社日本レースプロモーション

9月28日(土)～29日(日)
2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第6戦 岡山国際サーキット
開催概要

株式会社日本レースプロモーション(代表取締役社長 倉下 明、所在地:東京都千代田区)は、9月28日(土)～29日(日)の2日間、岡山県美作市 岡山国際サーキット(1周:3.703km)において「全日本スーパーフォーミュラ選手権」第6戦を開催いたします。

今大会は、ノックアウト方式による公式予選と、決勝レース 68周(251.804km)で争われます。

今大会の公式予選Q1は、第3戦スポーツランド SUGO大会と同様、2つのグループ(A組とB組)に分けて実施します。各組10分間の走行を行い、各組の上位6台が次のセッション(Q2)へ進出します。各組のグループ分けの方法は抽選とし、参加車両が複数のエントリーは、それぞれ別の組とします。(※詳細に関しては、P2公式予選を参照)また、昨年公式予選Q3で使用可能とされたOTSは、今大会では使用禁止となります。

また、決勝では、タイヤ交換義務を10周目以降から最終周までに完了する特別規則が制定されます。
(→詳細は次ページ「決勝レース」を参照)

前戦のツインリンクもてぎ2&4レースは、フロントローからスタートした平川 亮(イトウチュウエネクス チーム インパル)が初優勝を果たし、7番手から5台抜きのロケットスタートを決めた小林 可夢偉(カロツツェリア チーム ケーシーエムジー)が2位、戦略とレースペースの良さを活かし12番手から大きくポジションアップしたニック・キャンディ(バンテリン チーム トムス)が3位となったほか、至る所で熱いバトルが展開されたドラマの多い大会となりました。

今大会が行われる岡山国際サーキットは、コース幅とエスケープゾーンが狭く回り込むようなコーナーが多いレイアウトの為、「抜きづらいサーキット」と言われており、決勝のスターティンググリッドを決める予選が非常に重要で、果敢なタイムアタックが予想されます。その岡山大会で2017年、2018年と、2年連続ポールポジション獲得という強さを見せる関口 雄飛(イトウチュウエネクス チーム インパル)が3年連続のポールポジション獲得なるか!?!も注目です。

シリーズランキングでは、富士大会終了時点27ポイントでトップを守っていた山本 尚貴(ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング)がもてぎ大会9位でノーポイントだった為、3位6ポイントを獲得したキャンディが28ポイントでランキングトップに浮上。3位には、20ポイントのアレックス・パロウ(ティーシーエス・ナカジマレーシング)、4位には、小林が19ポイントで続くほか、まだ他の多くのドライバーにもシリーズチャンピオンのチャンスが残されており、最終戦を前に誰が勝利を掴むのか、今大会から目が離せません。

2019シリーズチャンピオンの行方を占う上で、非常に重要な一戦となる今大会に、是非ご注目ください。



ドライバーポイントランキングでトップに立った ニック・キャンディ (バンテリン チーム トムス)

公式予選

Q1(各組10分間) 公式予選Q1を2つのグループ(A組とB組)に分け、各組10分間の走行とする。
各組の上位6台が(Q2)へ進出する。
実施に当たっては、大会特別規則書第17条3の運用に準じる。

・予選Q1の運用について

- 1)公式予選Q1を2つのグループ(A組とB組)に分けて実施する。
- 2)グループ分けの方法は抽選とする。
- 3)参加車両が複数のエントリーは、それぞれ別の組とする。
- 4)公式予選Q1は各組10分間の走行とする。
- 5)各組の上位6台がその次のセッション(Q2)へ進出する。
- 6)公式予選通過基準タイムは、Q1各組において達成された同組1位タイムの107%以内とする。
- 7)Q2に進出できなかった車両には、Q1で最も速いタイムを記録した組のQ1順位7番に総合予選順位13番が与えられ、別の組のQ1順位7番に総合予選順位14番が与えられる。以降交互に総合予選順位が決定される。

Q2(7分間) 上位8台がQ3に進出。9～12位の順位が確定。

Q3(7分間) 1～8位の順位が確定。

・セッションの間のインターバルは各10分。

・ノックアウト方式の名称は、予選にて好タイムが出なければその場でノックアウト(脱落)されることから、この呼称となりました。

※Q1=ミディアムタイヤのみ使用可能。

※Q2、Q3=ソフトタイヤ、ミディアムタイヤの使用が可能。

決勝レース

1周:3.703km × 68周 = 251.804km

最大レース時間 : 1時間30分

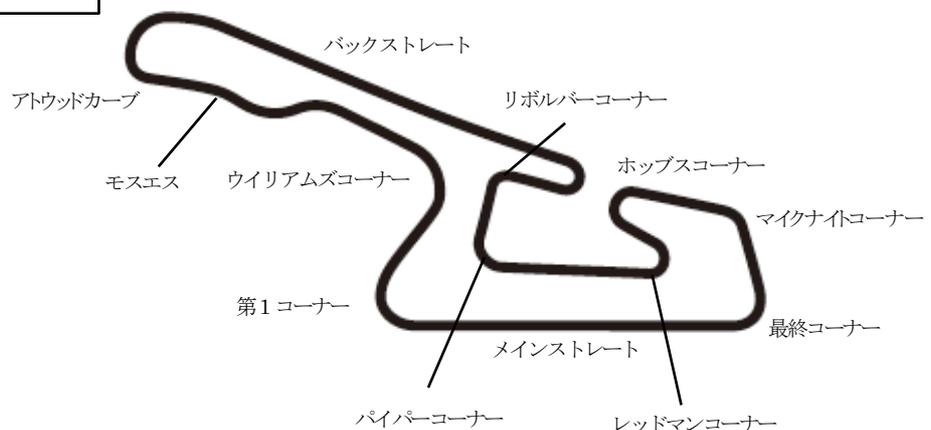
中断時間を含む最大総レース時間 : 2時間30分

※決勝レースでは、ソフトタイヤ、ミディアムタイヤ、2種類の使用が義務付けられています。また、タイヤ交換義務は、先頭車両が10周回目の第1セーフティカーラインを交差した時点から、先頭車両が最終周回に入るまでに完了していなければなりません。

岡山国際サーキットについて

2本の長いストレートと大小13のコーナーからなるテクニカルコースで、各コーナーには往年の名ドライバーの名前がついている。迫力ある見どころとしては、スタート直後の1コーナー、ヘアピンからリボルバーコーナーの下り、Wヘアピン(レッドマン・ホップスコーナー)。コースと観客の距離が近く、コース全長3.7km、レースの迫力をより身近に感じることができます。

岡山国際サーキットレーシングコース



2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第6戦 エントリーリスト

2019年7月5日現在

Car No.	ドライバー名	生年月日	出身地	チーム名 (読み)	監督	エンジン
1	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	1988/ 7/11	日本/栃木県	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング)	村岡 潔	HONDA/M-TEC HR-417E
5	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	1997/ 1/24	日本/徳島県			
3	山下 健太 Kenta Yamashita	1995/ 8/ 3	日本/千葉県	KONDO RACING (コンドーレーシング)	近藤 真彦	TOYOTA/TRD Biz-01F
4	国本 雄資 Yuji Kunimoto	1990/ 9/12	日本/神奈川県			
7	アーテム・マルケロフ Artem Markelov	1994/ 9/10	ロシア	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモスノコチームルマン)	片岡 龍也	TOYOTA/TRD Biz-01F
8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	1987/ 4/30	日本/群馬県			
15	パトリシオ・オワード Patricio O'Ward	1999/ 5/ 6	メキシコ	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	中野 信治	HONDA/M-TEC HR-417E
16	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	1989/ 9/15	日本/茨城県			
17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	1986/ 11/20	日本/栃木県	REAL RACING (リアルレーシング)	金石 勝智	HONDA/M-TEC HR-417E
18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	1986/ 9/13	日本/兵庫県	carrozzeria Team KCMG (カロツツェリア チーム ケーシーエムジー)	松田 次生	TOYOTA/TRD Biz-01F
19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	1987/12/29	日本/東京都	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インバル)	星野 一義	TOYOTA/TRD Biz-01F
20	平川 亮 Ryo Hirakawa	1994/ 3/ 7	日本/広島県			
36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	1985/ 1/11	日本/愛知県	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	舘 信秀	TOYOTA/TRD Biz-01F
37	ニック・キャンディ Nick Cassidy	1994/ 8/19	ニュージーランド			
38	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	1981/ 4/23	日本/東京都	JMS P.MU/CERUMO・INGING (ジェームスビーエムユーセルモインギング)	立川 祐路	TOYOTA/TRD Biz-01F
39	坪井 翔 Sho Tsuboi	1995/ 5/21	日本/埼玉県			
50	ルーカス・アウアー Lucas Auer	1994/ 9/11	オーストリア	B-Max Racing with motopark (ビーマックス・レーシング ウィズ モトパーク)	本山 哲	HONDA/M-TEC HR-417E
51	ハリソン・ニューウェイ Harrison Newey	1998/ 7/25	イギリス			
64	アレックス・パロウ Alex Palou	1997/ 4/ 1	スペイン	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	中嶋 悟	HONDA/M-TEC HR-417E
65	牧野 任祐 Tadasuke Makino	1997/ 6/28	日本/大阪府			

本田技研工業/M-TEC製エンジン使用チーム:5チーム9台
トヨタ自動車/TRD製エンジン使用チーム:6チーム11台

2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 ポイントランキング

ドライバーポイントランキング

順位	No.	ドライバー	トータル ポイント	2019/4/20-21 SUZUKA Rd.1	2019/5/18-19 AUTOPOLIS Rd.2	2019/6/22-23 SUGO Rd.3	2019/7/13-14 FUJI Rd.4	2019/8/17-18 MOTEGI Rd.5	2019/9/28-29 OKAYAMA Rd.6	2019/10/26-27 SUZUKA Rd.7
1	37	ニック・キャッシュ Nick Cassidy	28	10	1	5	6	6		
2	1	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	27	8	8	11	0	0		
3	64	アレックス・パロウ Alex Palou	20	0	3	0	11	6		
4	18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	19	0	0	8	3	8		
5	39	押井 翔 Sho Tsuboi	12	4	0	0	8	0		
6	5	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	12	0	4	4	0	4		
7	19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	11	0	10	0	1	0		
8	3	山下 健太 Kenta Yamashita	11	6	2	3	0	0		
9	16	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	11	5	0	0	5	1		
10	20	平川 亮 Ryo Hirakawa	10	0	0	0	0	10		
11	50	ルーカス・アウアー Lucas Auer	10	2	0	6	0	2		
12	38	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	7	0	0	2	2	3		
13	8	大嶋 和也 Kazuya Ushima	6	0	6	0	0	0		
14	65	牧野 任祐 Tadasuke Makino	6	1	5	0	0	0		
15	4	国本 雄資 Yuji Kunimoto	5	3	1	1	0	0		
16	36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	4	0	0	0	4	0		
17	15	ダニエル・ティクトウム Daniel Ticktum	1	1	0	0	-	-		
	7	アーテム・マルケロフ Artem Markelov	0	0	0	0	0	0		
	15	パトリシオ・オワード Patricio O' ward	0	-	-	-	0	0		
	17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	0	-	0	0	0	0		
	17	トリスταν・シャルパンティエ Tristan Charpentier	0	0	-	-	-	-		
	51	ハリソン・ニューウエイ Harrison Newey	0	0	0	0	0	0		

※表中ポイント数字の 太字：優勝 下線：予選ポールポジション

※ 最終戦鈴鹿大会に限り、レースの勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

※ 最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチームが同一のポイントを得た場合、高得点を得た回数が多い順に順位を決定する。

※ルーキー・オブ・ザ・イヤー：当該年度初参戦となるルーキードライバーが3名以上存在する場合、その中で年間獲得ポイント最上位の選手に贈られる。

(ルーキー：SFの決勝レース出走回数が積算で4戦未満のドライバー)

チームポイントランキング

順位	No.	チーム	トータル ポイント	2019/4/20-21 SUZUKA Rd.1	2019/5/18-19 AUTOPOLIS Rd.2	2019/6/22-23 SUGO Rd.3	2019/7/13-14 FUJI Rd.4	2019/8/17-18 MOTEGI Rd.5	2019/9/28-29 OKAYAMA Rd.6	2019/10/26-27 SUZUKA Rd.7
1	1 5	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング)	38	8	12	14	0	4		
2	36 37	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	32	10	1	5	10	6		
3	64 65	TCS NAKAJIMA RACING (ティエシーエス・ナカジマレーシング)	23	0	8	0	10	5		
4	19 20	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インパル)	21	0	10	0	1	10		
5	38 39	JMS P.MU/CERUMO・INGING (ジェームス ピーエムユーセルモインギング)	19	4	0	2	10	3		
6	18	carrozzeria Team KCMG (カロツゼリア チーム ケーシーエムジー)	19	0	0	8	3	8		
7	3 4	KONDO RACING (コンドーレーシング)	15	9	2	4	0	0		
8	15 16	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	12	6	0	0	5	1		
9	50 51	B-Max Racing with motopark (ビーマックス・レーシング ウィズ モトパーク)	10	2	0	6	0	2		
10	7 8	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモスノコ チーム ルマン)	6	0	6	0	0	0		
	17	REAL RACING (リアルレーシング)	0	0	0	0	0	0		

※表中ポイント数字の 太字：優勝

※チームポイント：各チーム(エントラント)に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。同一チーム(エントラント)に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

—開催概要—

- 大会名称 : 2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第6戦 岡山国際サーキット
- 開催日程 : 2019年9月28日(土) 公式予選
2019年9月29日(日) 決勝レース
- 開催サーキット : 岡山国際サーキット(1周:3.703km)
- 主催 : 株式会社 岡山国際サーキット
アイダクラブ(AC)
- 公認 : 国際自動車連盟(FIA)
一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
- 認定 : 株式会社日本レースプロモーション(JRP)
日本フォーミュラスリー協会(JF3A)
- 認定 : 岡山県/美作市/岡山県観光連盟/美作国観光連盟/岡山県経済団体連絡協議会/
岡山県商工会議所連合会/岡山県経営者協会/一般社団法人岡山経済同友会/
岡山県中小企業団体中央会/岡山県商工会連合会/山陽新聞社
- 同日開催 : 2019年 全日本F3選手権 第19戦/第20戦
TCR Japan Series 2019 第4戦
2019N-ONE OWNER'S CUP Rd.10
ロードスター・パーティレースIII 西日本シリーズ第3戦

【TV放映】

■ BSフジ『2019スーパーフォーミュラ選手権 第6戦 岡山国際サーキット』

一昨年から無料/全国放送のBSフジでスタートした「決勝レース中継」を今年も放送いたします。今年は昨年までの生放送から決勝レース当日の17時～18時55分という、より視聴者の多い時間帯での録画放送に変更し、レース前の見所やルール解説、レース終了時の総括、そして表彰式まで、決勝レースの全体像をキチンと視聴者の皆様にご覧いただきます。

○放送時間 : 2019年9月29日(日)17:00～18:55

○実況 : 野崎 昌一

○解説 : 土屋 武士

○ピットレポート : 千代 勝正

■ BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

今年は内容を一新し、今シーズン国内外の若手レーキードライバーをはじめ、注目のドライバーにフォーカスを当て、彼らにゆかりのある選手や監督をゲストに迎え、新たな情報番組としてお送りします。

本田朋子の進行、乃木坂46の樋口日奈のナレーションは今年も継続。レースのレビューやニュースも含め、よりグレードアップした新生「スーパーフォーミュラGO ON!」にご期待ください。

○放送時間:

第6回 : 2019年9月13日(金) 23:00～23:55 (再放送 9月22日(日) 25:00～25:55)

ゲスト:中野 信治、牧野 任祐、福住 仁嶺

○進行 : 本田 朋子

○ナレーター : 樋口 日奈(乃木坂46)

■ J SPORTS『スーパーフォーミュラ 2019』

全7戦の予選と決勝の様様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組も放送します。

尚、放送時間、放送チャンネルは予告なく変更される場合がありますので、「J SPORTSモータースポーツ」内の「スーパーフォーミュラ」ページか、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブサイト」でご確認ください。

『スーパーフォーミュラ 2019 第5戦 岡山国際サーキット』

予選 2019年9月28日(土) 14:15～ J SPORTS 3 <生中継>

決勝 2019年9月29日(日) 14:35～ J SPORTS 3 <生中継>

【映像配信】

■ Yahoo! GYAO!

大会終了10日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドで無料配信。

※配信日時は変更となる場合があります。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

■ YouTube

予選ならびに決勝の競技映像をダイジェスト版にて当日夜配信。

※配信日時は変更となる場合があります。詳しくは予選ならびに決勝日の夜、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブ
サイト」でご確認ください。

superformulavideo-YouTube

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>

【海外配信/放送】

■ motorsport.com (配信)

■ LetsGoRacing (Youtube Channel Livestream) (配信)

■ motorsport.tv (放送)

【インターネット/SNS】

■ オフィシャルWEBサイト

<http://superformula.net>

■ 公式LiveTimingアプリ

i OS,Android 対応無料ライブタイミングアプリ「SUPERFORMULA」で検索

■ スーパーフォーミュラオフィシャル Twitter

https://twitter.com/SUPER_FORMULA

※公式ハッシュタグ『#sformula』

■ スーパーフォーミュラオフィシャルFacebook

<https://www.facebook.com/superformula.official>

※公式ハッシュタグ『#sformula』

■ オフィシャル Instagram

https://www.instagram.com/superformula_official

※公式ハッシュタグ『#superformula』

【チケット情報】

●前売観戦券

- 土日通し: 5,400 円
- 土曜日: 4,300 円
- 日曜日: 5,400 円
- パドックパス: 9,720 円(土日通し)

●前売駐車券(土日各日)

- 4 輪: 1,650 円
- 2 輪: 1,100 円(当日券のみ)

詳しくは、レースチケットのご案内 (<http://www.okayama-international-circuit.jp/special/sf-2019/ticket.html>)をご参照ください。

*この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

株式会社日本レースプロモーション(<http://www.superformula.net/>)

102-0074 東京都千代田区九段南 2-3-25 平安堂ビル

e-mail:media@superformula.net

Tel:03-3237-0131 Fax:03-3237-0135

【2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 参考資料】

1. 全日本スーパーフォーミュラ選手権とは？

純然たるレーシングマシンであるオープン・シングルシーターのフォーミュラカーによって競われる国内最高峰の自動車レースです。一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が公認し、株式会社日本レースプロモーションのプロモートにより、1996年にフォーミュラ・ニッポンとしてスタート。2013年より名称をスーパーフォーミュラに変更し現在に至っています。

2. チャンピオンシップ

2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権は、全7戦、日本全国6カ所のサーキットを11チーム(エントリー)、国内外の20名(20台)のドライバー(※1)が転戦しチャンピオンが争われる、アジア地域唯一の国際格式選手権シリーズです。

(※1)ドライバー:国内:14名、海外:6カ国(イギリス、オーストラリア、スペイン、ニュージーランド、メキシコ、ロシア)6名

2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ開催スケジュール

日程	ラウンド/サーキット	予選方式	決勝レース方式
4 / 20 ~ 21	第1戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	250 km
5 / 18 ~ 19	第2戦/オートポリス	ノックアウト	250 km
6 / 22 ~ 23	第3戦/スポーツランドSUGO	ノックアウト	250 km
7 / 13 ~ 14	第4戦/富士スピードウェイ	ノックアウト	250 km
8 / 17 ~ 18	第5戦/ツインリンクもてぎ	ノックアウト	250 km
9 / 28 ~ 29	第6戦/岡山国際サーキット	ノックアウト	250 km
10 / 26 ~ 27	第7戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	250 km

2019年シリーズ選手権 ポイントシステム

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位以下	PP
1大会1レース	10	8	6	5	4	3	2	1	0	1

※ 最終戦鈴鹿大会に限り、レースの勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

※ 最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチームが同一のポイントを得た場合、高得点を得た回数が多い順に順位を決定する。

●ルーキー・オブ・ザ・イヤー：当該年度初参戦となるルーキードライバーが3名以上存在する場合、その中で年間獲得ポイント最上位の選手に贈られる。
(ルーキー:SFの決勝レース出走回数が積算で4戦未満のドライバー)

●チームポイント：各チーム(エントリー)に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。
同一チーム(エントリー)に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。
チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

3. シリーズ賞典

各レースでの入賞成績に応じて与えられるポイントの合算により、シリーズチャンピオンが決定。ドライバーとチームの2部門に全日本スーパーフォーミュラ選手権のタイトルが懸けられチャンピオン獲得者には下記の賞典が授与される。

- 年間チャンピオンチーム
 - ・経済産業大臣杯
- 年間チャンピオンドライバー
 - ・ドライバーズチャンピオンカップ
 - ・観光庁長官杯(予定)
 - ・自由民主党モータースポーツ振興議員連盟杯
- ルーキー・オブ・ザ・イヤー
 - ・トロフィー

4. レース車両

◎シャシー

車両は、2018年までのSF14で実績のあるイタリアのダラーラアウトモビリティ社の設計・製作によるもので、SF14のコンセプト「Quick&Light」を継続しつつ、2016 FIAの安全基準に対応し、空力の見直しにより、さらにオーバーテイクし易くなることで、ドライバー同士のバトルが際立つ、エンターテインメントと競技の両立を目指して開発されました。

◎エンジン

日本を代表する自動車メーカーであるホンダとトヨタが次世代エンジン開発に貢献するコンセプト=NRE(※2)に基づき開発した本田技研工業/M-TEC製/HR-417E、トヨタ自動車/TRD製/Biz-01Fを搭載しています。

このエンジンの特徴としては、「燃料リストラクター」(燃料流量規制システム)を全機装備し、燃料流量を一定にすることにより燃料をいかに効率良く活用しパワーに結びつけるかが、勝負の鍵となります。

厳しい開発競争の結果、効率の良さを図る“正味燃費消費率(BSFC)”、“正味熱効率”では市販ハイブリット車以上の性能を発揮しており、次世代エコエンジンの開発に貢献しています。

(※2)NRE エンジンについて

ホンダ、トヨタ、ニッサンが、環境技術とモータースポーツの面白さの両立に向けて決定したエンジン規定。

- ・気筒配列 : 直列4気筒
- ・排気量 : 2,000cc+ターボ
- ・燃料吸気方式 : ダイレクトインジェクション
- ・燃料流量制限 : 鈴鹿、富士大会… 燃料流量95kg/h
その他大会……燃料流量90kg/h

◎オーバーテイクシステム

オーバーテイクシステム(以下OTS)は、レースに於ける見せ場の一つである追い越しをより促すシステムで、2009年より採用しています。

このシステムは、各エンジンに装備されている燃料リストラクターを活用し、燃料供給量を一時的に増加させパワーを上げる、というもので(※3)、ステアリングのボタン操作により、決勝レース中、最大100秒間使用可能です。また、使用回数は任意です。ただし、OTS作動後は100秒間の使用制限が設けられている為、昨年までの1回20秒間を5回使用できる仕様と比べ、使用するタイミングがより重要となり、戦略性が高くなっています。なお、OTS作動中は、ドライバーのヘルメット後方にあるオーバーテイクランプ(OTL)が点滅し、観客からも視認できるとともに、リアコーションランプも連動して点滅するので、後方のドライバーも視認が可能です。

また、OTS使用可能残時間は、OTL自体の色でわかりやすく表示いたします。

●OTLの識別

- ・残り100秒から20秒までは、グリーンの常灯
- ・20秒未満は、赤の常灯
- ・0秒で、消灯
- ・OTS作動時は、点滅
- ・100秒間の使用制限中は、スロー点滅
- ・OTS作動時は、リアコーションランプが連動



SF14用(左) SF19用(右)



残り100秒→20秒



残り20秒→0秒

(※3) オーバーテイクシステムについて

- ・メカニズム : システム作動時に燃料流量を10kg/h増加させる
- ・効果 : 約60ps、10%の出力増
- ・ルール : 決勝レース中、最大100秒間使用可能

◎タイヤ

2016年シーズンより横浜ゴム製のワンメイク供給です。横浜ゴムのスーパーフォーミュラ用ADVANレーシングタイヤは、スーパーフォーミュラが要求するグリップ、耐久性、安全性などの厳しい目標に対し、高いパフォーマンスを発揮、レースの盛り上げに貢献しています。

SF19用に新たに開発された2019シーズンタイヤは、フロントタイヤをこれまでより20mm広げ構造自体も変更し、さらに性能が向上いたしました。

2018シーズンより、全戦で「ソフトタイヤ」「ミディアムタイヤ」の2スペックタイヤ制が導入され、チーム戦略に多様性をもたらし、エキサイティングなレース展開を演出しています。